国際理解教育/開発教育　学習指導(活動)案

【実践者】

授業者氏名	髙橋　謙介	学校名	山形県立小国高等学校
教科(科目)・領域	地理探究	対象学年(人数)	3年　1組(12名)
実践年月日もしくは期間(時数)		令和7年　10月　～　11月(4時間)	

【実践概要】

1. 単元名(活動名): オーストラリアの多文化主義から考える難民問題

2. 実践する教科・領域
地理探究

3. 学習領域

	1	2	3	4
A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	相互依存	情報化		
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標(評価規準を意識して設定)
・オーストラリアにおける多文化主義の背景及び現状を理解する。
・難民が置かれている状況を理解する。
・日本の難民受け入れの現状を踏まえて、今後日本は難民に対してどうしていくべきか、自分の考えを持ち表現することができる。

5. 単元の評価規準

①知識・技能	・オーストラリアにおける多文化社会の背景及び現状を理解している。 ・難民について理解をするとともに、その発生原因や受入国の影響について理解する。
②思考・判断・表現	・日本の難民受け入れの状況について、日本は今後どうしていくべきか、自分の考えを持ち、表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	・授業の諸活動に意欲的に参加し、自分が今後多文化社会に対してどう向き合っていくかを考えることができる。

6. 単元設定の理由・単元の意義
【単元設定の理由あるいは単元の意義】
現在日本は、少子高齢化による労働力不足やグローバル化が進行し、外国人人口が増え続けている。そのような現状から、多文化主義を実践しているオーストラリアについて学習することは、これからの社会を生きる生徒にとって有益なことである。オーストラリアにはアジアを中心とした外国人が多く存在しており、また、難民の受け入れも積極的に行っている。そこに着目し、難民がオーストラリア社会に与える影響について考えることで、オーストラリアの現状だけではなく、日本はこれから難民に対してどうするべきか考えることができる。また、同時に難民について、なぜ発生してしまうのか、その社会的な構造まで考え、理解を深めていきたい。
この単元を通して、オーストラリアの多文化主義の理解から難民について理解を深め、難民をほとんど受け入れていない日本の現状について考え、今後どうしてくべきか考えることができる。
【児童／生徒観】
3年1組の地理探究選択者は、地理に対して意欲的に学ぶ姿勢が見られる。これまでは知識の習得だけではなく、問題演習にも取り組んできた。演習を通して、物事を多面的・多角的にとらえる力や、持っている知識を組み合わせて一つの解答を導き出す力を養ってきた。1人で考える力の他にも、仲間と協働して演習をする場面も設定しており、違う考えを受け入れる力、自分の考えを伝える力も養ってきた。全体的に、地理的事象に対する興味関心が高く、主体的に学習に取り組むことができている。また、本校は毎年インドからの高校生の受け入れや、研修旅行も台湾であるため異文化についての興味関心も高い。
【教材観】
グローバル化及び人口減少が進む日本は、今後外国人の流入が進むと考えられている。その中で同じ先進国であり多文化共生を実現しているオーストラリアの現状を学ぶことは、これからの日本で生きていく生徒にとって有益な

ことであると考える。「いのちの持ち物けんさ」ワークショップでは自分の身近にあるものや日常を改めて振り返ることができ、自分という存在を見つめ直すことができる。そのうえで難民の人たちの痛みを共感することで、国境を越えた他者理解に繋がると考える。また、実際に難民支援を行っている団体の話を聞くことで、よりリアルに感じることができ、難民問題は実際に起きているのだと課題意識を持つことができる。

【指導観】

難民問題を単なる世界で起きている出来事として認識するのではなく、自分たちにも関係があり、将来関わるかもしれないという気持ちになってもらえるような授業展開、声がけを行う。生徒の感想を丁寧に拾い上げ、そこから生徒が新たな気付きを得られるようにしていきたい。そして難民の気持ちに共感して終わるのではなく、発生してしまう原因や難民の受け入れ国での立場、社会に与える影響など、より深い理解ができるように指導していきたい。

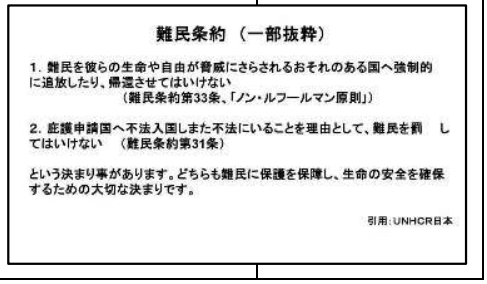
7. 単元計画(全4時間)

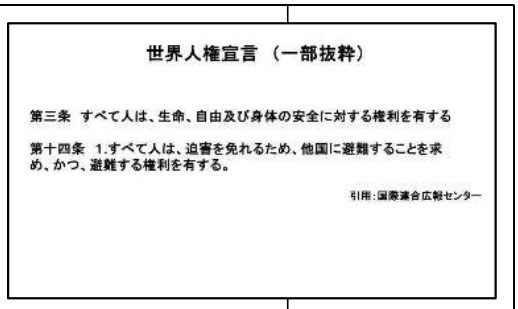
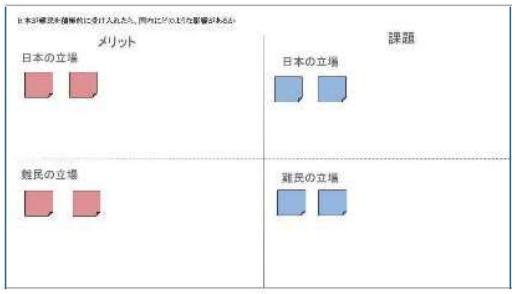
時間	ねらい	学習活動	資料など
1	オーストラリアが多文化社会になった背景とその現状を理解する。 その中で特に難民に焦点を当て、難民問題を考えるきっかけを作る。	○授業プリントを中心に学習する	授業プリント
2	喪失の疑似体験を通して難民の人たちの痛みを共感する。 難民に対する国際的な理念を確認する。	○UNHCR の「いのちの持ち物けんさ」(3人1組のグループ) ○「世界人権宣言」及び「難民条約」について確認する。	UNHCR 「いのちの持ち物けんさ」
3 (90 分)	実際に難民支援を行っている団体の話を聞き、難民についてより深く理解する。	○「難民を知るワークショップ」	認定 NPO 法人 Ivy https://ivyivy.org/index.html
4 本時	日本が難民を受け入れることで国内にどのような影響がでるのかを考える。そのうえで自分はどうしていくべきか、何ができるかを考える。	○KJ 法でグループごと意見を出し、まとめる ○個人での振り返りを行う	難民条約 世界人権宣言 日本での難民を経験した人の声

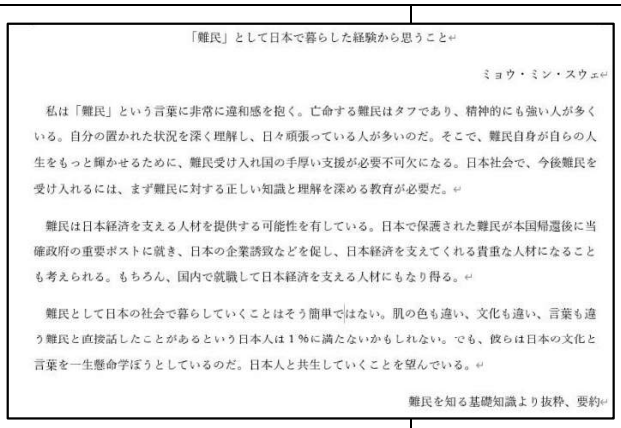
8. 本時の展開(概略)

本時のねらい:日本が難民を受け入れることで国内にどのような影響がでるのかを考える。そのうえで自分はどうしていくべきか、何ができるかを考える。

過程・時間	発問および学習活動 T 教師の働きかけ ・予想される生徒の回答	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	**前回まで習ったことをグループで思い出す。** T オーストラリアの多文化共生を学ぶところから前回の Ivy の話まで様々学んできたと思います。グループの人たちと話してちょっと思い出してみましょう。 ・いのちの持ち物けんさやったね ・Ivy の話はリアルだった T そこでどんなことを感じたの? ・何かを失う辛さがわかった ・本当に今、現在起きていることだと実感した **「世界人権宣言」及び「難民条約」の内容を復習して、難民に対する国際的な理念を再確認する。** T 2時間目の授業で「世界人権宣言」及び「難民条約」について学習したと思うけれど、難民に対する国際的な理念はどんなものだっ	生徒が活動した内容だけでなく、その時にどんな気持ちになったのか、何を考えたのか、そういった気持ちを振り返ることができるような声がけを行う。	前回までの授業プリント



	たかな。確認してみよう。 ・様々な権利があったけれど「すべて人は、迫害を免れるため、他国に避難することを求め、かつ、避難する権利を有する。」というものがあったよね。 ・「難民を彼らの生命や自由が脅威にさらされるおそれのある国へ強制的に追放したり、帰還させてはいけない」とあったようにしっかりと保護しないといけないんだよね。		
展開 （35分）	**日本が難民を積極的に受け入れたら、国内にどのような影響があるかを考える。（KJ 法）** T これまでの授業を踏まえて、日本が積極的に難民を受け入れることになったとしたら、どのような影響が出るかを考えてみよう。今回はメリットと課題について考えていきます。 まずは受け入れることで起きるメリットと課題について日本の立場になって考えていこう。 メリット ・労働力が増える ・様々な文化が入ってきて多文化になる ・課題 ・財政が厳しくなる ・治安が悪くなる T 次に難民として日本で暮らすことになった人たちの立場に立って考えてみよう。 メリット ・治安はいいから安心して暮らせるかも ・インフラは比較的整っているよね 課題 ・日本語は難しいかも ・冬は寒いよ T 難民でやってきた方に子供ができたら、その子供たちにはどんな影響があるだろうか？ ・日本語話せるようになるのかな ・学校で仲間外れとか差別にあったりするかも T 難民の人たちはずっと日本に住み続けるのかな？ ・ずっといると思う ・たしか帰るんじゃなかったっけ？ ・国が落ち着いたら帰りたいよね ・日本住みやすいからそのままいるんじゃないの？ **実際に日本での難民を経験した人の声を紹介する** 実際の難民の声のポイント 「亡命する難民はタフであり、精神的にも強い人が多くいる。自分の置かれた状況を深く理解し、自分の人生の再チャレンジをいつも探っている」 「難民は日本経済を支える人材を提供する可	難民に対する国際的な理念を踏まえて、受け入れることを前提として考えていくことを確認する。 前回までで使用したプリントなどを準備させ、より学んだことに基づいて意見が出せるようにする。 意見が出せない生徒に対して、「人手が増えたらうれしい場所はあるかな？」など具体的にイメージできるような声がけを行う。  この問いかけは状況をみて随時行う。 ここでは授業者が読み上げ、各グループには読み上げたのちプリントを配布する。	大判用紙の使い方 難民を知る基礎知識より抜粋、要約の上で紹介する。 ※別添資料

	能性を有している。日本で保護された難民が本国帰国後に重要なポストに就き、日本の企業誘致などを促し、日本経済を支える人材になりうる」 「難民は日本の文化と言葉を一生懸命学ぼうとしている。日本人と共生していくことを望んでいる」 T この声を聞いてみんなはどう思った？また、新たに思いついたことがあれば書いてみよう。 ・帰った後母国で貢献しているね ・日本を支援したいって言ってくれているね ・帰った後のことは考えたことなかった **出た意見の深掘りをおこなう** T それでは付箋は出そろったと思うので、次は深掘りをしていきます。例えば「治安が悪くなる」という付箋があるとしたら、なぜ治安が悪くなってしまうのか、といったようにそれぞれの付箋についてそうなる原因を考えてください。今回は特に課題の方で出た付箋を中心に考えてみてください。 ・治安が不安定になる →仕事がなかったら犯罪が増えてしまう ・財政が厳しくなる →難民の人たちを支援するための費用が必要であるから。 **ここで再度国際的な理念を確認する** T ここで再度国際的な理念を再確認してみよう。みなさん覚えていますか？先ほどでた課題とこの理念を照らし合わせて感じることはありますか？グループで話してみてください。 ・難民の人たちの生活も大事だし、自分たちの生活も大事だよね。 ・予算も限られているだろうし一筋縄ではいかなそうだよね。 **先ほどのワークで深掘りした課題を解決するための方法を考える。** T ここからは先ほど深掘りした課題について、その課題を解決するために考えられる方法を考えていこう。様々課題が出たと思うけれども、今回は特に 2 つに絞って各グループで考えてみてください。方法とその理由を考えてみてください。 ・日本語習得に向けた支援を行う T 誰が日本語を教えるのかな ・外国人向けの日本語学校とか？ ・Ivy さんみたいな NGO 団体？ ・難民を経験した外国人の人とかだと気持ちもわかっていいかもね ・就職支援を行う	 「難民」として日本で暮らした経験から思うこと ミョウ・ミン・スウェ 私は「難民」という言葉に非常に違和感を抱く。亡命する難民はタフであり、精神的にも強い人が多くいる。自分の置かれた状況を深く理解し、日々頑張っている人が多いのだ。そこで、難民自身が自らの人生をもっと輝かせるために、難民受け入れ国の手厚い支援が必要不可欠になる。日本社会で、今後難民を受け入れるには、まず難民に対する正しい知識と理解を深める教育が必要だ。 難民は日本経済を支える人材を提供する可能性を有している。日本で保護された難民が本国帰還後に当確政府の重要ポストに就き、日本の企業誘致などを促し、日本経済を支えてくれる貴重な人材になることも考えられる。もちろん、国内で就職して日本経済を支える人材にもなり得る。 難民として日本の社会で暮らしていくことはそう簡単ではない。肌の色も違い、文化も違い、言葉も違う難民と直接話したことがあるという日本人は１%に満たないかもしれない。でも、彼らは日本の文化と言葉を一生懸命学ぼうとしているのだ。日本人と共生していくことを望んでいる。 難民を知る基礎知識より抜粋、要約 思いつくところから付箋を書いていくように指示をする。また、できるだけすべての付箋について深掘りできるようにする。 時間がなければ1つ	

	T どういった職業についてもらうのかな？ ・収入が安定している職業がいいね ・自分の国での経験を活かせる職業がいいね ・一番はその人が就きたい仕事に就くことだよね **出そろったらグループごと発表を行う**		
まとめ （10分）	**・個人での振り返り** 〇個人での振り返りをします。各自プリントに記入してください。 T 今回学んだことを踏まえて、これから生きていくうえでどんなことを意識して生活していくとよいか、プリントにまとめてみよう。 ・これから外国の人とかかわるときに、外国人だからという理由で敬遠しないで、1 人の人間としてしっかり向き合いたいと思った。もしもその人が難民だとしたら相当な苦労をされていると思うので、思いやりの気持ちをもって接していけるようにする。 ・難民の方々の支援をしっかりとすれば日本は世界は良い方向に動いていくのではと思った。私も今を生きる人間として何か少しでも協力できることがないかと思ったので、まずは自分で難民についてもっと知りたいと思う。 T 今回は特に難民に焦点を当てて考えましたが、日本には難民だけではなく移民の方もたくさん流入してきます。今回感じたことを忘れずに生活してください。	グループでの活動が中心だったので、個人でしっかりと向き合う時間にする。	授業プリント

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

日本が難民を受け入れることで国内にどのような影響がでるのかを考えることができたか。
そのうえで自分はどうしていくべきか、何ができるかを考えることができたか。
（ワークショップの様子、プリントへの記入状況）

10. 学習方法および外部との連携

UNHCR の「いのちの持ち物けんさ」をアレンジして実施する。また、3時間目には認定 NPO 法人 Ivy さんにお越しいただき、難民を知るワークショップを中心によりリアルな目線で難民について考えていく。Ivy さんは私自身、教師海外研修の事前研修でお世話になった後に、昨年度も本校にお越しいただき開発教育ワークショップを行っていただいた。今回もその繋がりから依頼した。本時では KJ 法を用いて考えを深めていく。

11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み

校内での授業研究の実施
職員研修での情報共有
他県地理部会での公演

【自己評価】

12. 苦労した点

難民と移民の違いをしっかりと学習したうえで本時の授業を展開するべきだった。移民も難民も「外国人」とひとくくりにして考えている生徒も見られたため、授業展開に工夫が必要だった。生徒がこちらの予想よりも多くの付箋を出してくれたため、時間が足りなかった。

13. 改善点

移民と難民の区別をしっかりとしたうえで授業を展開するべきだった。そのために、実際に日本での難民問題について、より理解を深めることが必要であると感じた。社会の現実を知ったうえで自分たちには何ができるか、どうしてくべきか、といったより複雑な課題に向き合わせるような授業展開が必要である。本時で行ったような付箋の原因

を考えることや、影響を考えるといった「深掘り」ではなく、現実社会で実際に起きているジレンマを体験させ、その上で自分の答えを出すといった思考の深掘りが必要である。

14. 成果が出た点

単元全体を通して難民についての理解を深めることができた。特に申請の難しさや世界の現状について理解が深まったと感じる。

本時では、模造紙を使い授業を行ったので生徒の考えをより多く引き出すことができた。難民を積極的に受け入れるうえでの課題について考えることができた。

15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)

〇授業を受ける前難民についてどのような印象を持っていたか。
・悪い印象があった。悪いニュースで取り上げられてばかりだったから。
・あまりいい印象はなかった。自国にいるのが危ないから必死になって逃げているという印象。
・難民は多く受け入れたほうがいい。そんなに手間はかからないだろう。
・難民を受け入れることは簡単。日本にはあまり縁がない話と思っていた。
・難民によって治安が悪くなりそうだ。難民との共生は難しいだろう。
〇今回の授業を通して学んだこと。
・難民になるまでとても大変だと思った。様々な申請をしないといけないし、難民になれたとしても大変なことがたくさん待っていると思った。
・難民を支援するには多くの時間とお金がかかることが分かった。支援をするにも適切なもの、職、住居が全く分からず、これはまず意味がないんじゃないかと思うこともあった。
・日本の受け入れ態勢はやはり遅れている。受け入れることで互いに良い点もあるが、課題の方が目立つ。言語の壁はやはり大きく、難民に安心安全が訪れる日は遠いと感じた。
・難民は安全な国に逃げることができても、仕事や支援が少ないため満足はできないと思う。
・難民と共存するためにはまず自国が余裕がないとやっていけないと感じた。
〇今回学んだことを踏まえて、これから生きていくうえでどんなことを意識して生活していくとよいか。
・日本にも難民が何人か入ってきていることを全然知らなかった。もっと世界のことや難民のことを知らなくてはと思った。
・相手がだれであろうと思いやりをもって生きていきたい。
・他国で暮らせと言われた時に、私たちは英語を学ぶ機会があったので伝えるすべを知っているけれど、難民の方々はその機会すらなく、何もわからないところで生活しなければならないことを考えると、学ぶことのありがたさを改めて意識していこうと思う。
・人に聞いたことだけではなく、しっかり自分で考えて行動することが必要。他国の情勢を気にして、難民となった人と会った時にはどう関わっていけばよいかを考えていきたい。
・どんなことも他人事とせず自分事として生きていきたい。

16. 授業者による自由記述

今回は難民というテーマで授業を展開したが、やはり難しいと感じた。世界における難民の状況、難民申請の難しさ、日本における難民問題など、難民問題と言っても多くのことを学ぶ必要があると感じた。高校三年生であれば、これらのことを学習したうえで本時の授業を行えば、生徒にとってより深く考えられる授業になると感じた。今回初めて難民についての授業を実践した。一つの授業を作るのにここまで多くの本を読んだことは初めてであり、また、大津先生をはじめいろんな方から助言やアドバイスをいただくことができた。授業を実際に展開していく中で、そのアドバイスの意味を身に染みて感じることができた。この授業は今年で終わりではなく、来年度も再来年度もアップデートを重ねてより良い授業にしていきたいと思っている。

【参考資料】

- JICA なぜ難民は増え続ける？ 平和な社会をつくるため必要なことは【世界をもっとよく知りたい！・5】 https://www.jica.go.jp/information/topics/2024/p20250107_01.html
- UNHCR 難民についての授業の広場 https://www.japanforunhcr.org/news/2017/forteachers
- HUFFPOST シリア難民たちは何を持って逃げてきたのか カバンの中身を見せてもらった https://www.huffingtonpost.jp/2015/09/08/syrian-refugees-reveal-bags_n_8104814.html
- オーストラリア多文化社会論 移民・難民・先住民族との共生を目指して (関根政美・塩原良和・栗田梨津子・藤田智子)
- 現代国際理解教育辞典(日本国際理解教育学会)
- 難民を知るための基礎知識～政治と人権の葛藤を超えて～(滝澤三郎・山田満)